

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構債券説明書
平成 29 年 10 月 20 日

第 186 回・第 187 回
日本高速道路保有・債務返済機構債券

独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構

- 1 本独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構債券説明書（以下「本説明書」という。）において記載する「第 186 回日本高速道路保有・債務返済機構債券（指定金融機関等限定）」及び「第 187 回日本高速道路保有・債務返済機構債券」（以下、本説明書中において第 186 回日本高速道路保有・債務返済機構債券（指定金融機関等限定）及び第 187 回日本高速道路保有・債務返済機構債券を総称して、または文脈によりそのいずれかを「本債券」という。）は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法（平成 16 年法律第 100 号）（以下「機構法」という。）第 22 条に基づき、国土交通大臣の認可を受けて、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構（以下「当機構」という。）が発行する債券です。
- 2 本債券は、政府保証の付されない公募債券（財投機関債）であり、いかなる意味においても政府の債務を表章するものではありません。
- 3 本債券については、金融商品取引法（昭和 23 年法律第 25 号）第 3 条により、同法第 2 章の規定が適用されず、従って、その募集について同法第 4 条第 1 項による届出は行われておりません。本説明書は、本債券に対する投資家の投資判断に資するために、当機構が任意に作成したものでありますが、投資判断は別に配布する日本高速道路保有・債務返済機構基本説明書（平成 28 年 11 月）（以下「基本説明書」という。）の記載事項もあわせて慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。
なお、本説明書は、金融商品取引法第 13 条第 1 項に基づく発行届出目論見書ではありません。
- 4 当機構の事業年度は、独立行政法人通則法（平成 11 年法律第 103 号）（以下「通則法」という。）第 36 条第 1 項に定めるとおり、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わりますが、当機構は、機構法の施行により平成 17 年 10 月 1 日に設立されたため、その設立初年度となる平成 17 事業年度は、設立日である平成 17 年 10 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日までとなります。
- 5 当機構の財務諸表は、通則法、機構法のほか、中央省庁等改革の推進に関する方針（平成 11 年 4 月 27 日中央省庁等改革推進本部決定）を受けて開催された独立行政法人会計基準研究会において、平成 12 年 2 月 16 日に作成された「独立行政法人会計基準」及び「独立行政法人会計基準注解」等に基づき作成することとされており、かかる財務諸表は、通則法第 39 条の規定により、監事による監査のほか、会計監査人の監査を受けることとされており、
なお、当機構が作成する財務諸表については、金融商品取引法第 193 条の 2 の規定に基づく監査証明は求められておりません。
- 6 当機構は、機構法に基づき新たに設立された独立行政法人であり、日本道路公団、首都高速道路公団、阪神高速道路公団及び本州四国連絡橋公団の有する一切の権利及び義務は、日本道路公団等民営化関係法（平成 16 年法律第 102 号）（以下「施行法」という。）第 15 条第 2 項の定めにより国及び出資地方公共団体が承継することとされた権利義務を除き、施行法第 14 条第 3 項の認可を受けた実施計画（同条第 4 項の認可があった場合には、変更後の実施計画を指すものとする。）に従い、当機構並びに東日本高速道路株式会社、中日本高速道路株式会社、西日本高速道路株式会社、首都高速道路株式会社、阪神高速道路株式会社及び本州四国連絡高速道路株式会社が承継しております。かかる権利義務の承継の内容については、基本説明書「発行者情報 第 1 発行者の概況 3 事業の内容 (1) 当機構の業務内容」をご参照下さい。

本説明書に関する問い合わせは、当機構経理部資金課（045-228-5966）までお願いします。

本説明書の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 【証券情報】 | 1 |
| 【募集要項】 | 2 |
| 1 【新規発行債券】(40年債) | 2 |
| 2 【債券の引受け及び債券に関する事務の委託】(40年債) | 6 |
| (別紙) 償還期日における本債券の利息の金額、及び経過利息の算出方法 | 7 |
| 3 【新規発行債券】(40年債) | 11 |
| 4 【債券の引受け及び債券に関する事務の委託】(40年債) | 15 |
| 5 【新規発行による手取金の使途】 | 16 |
| 【基本説明書の補完情報】 | 17 |

【証券情報】

【募集要項】

1 【新規発行債券】(40年債)

| | | | |
|----------|--|--------------------------------------|---|
| 銘 柄 | 第 186 回日本高速道路保有・債務返済機構債券(指定金融機関等限定) | 振替債券の総額 | 金 15,000,000,000 円 |
| 記名・無記名の別 | — | 発行価額の総額 | 金 15,000,000,000 円 |
| 各債券の金額 | 1,000 万円の 1 種 | 申込期間 | 平成 29 年 10 月 20 日 |
| 発行価格 | 各債券の金額 100 円につき金 100 円 | 申込証拠金 | 各債券の金額 100 円につき金 100 円とし、払込期日に払込金に振替充当する。 申込証拠金には、利息をつけない。 |
| 利 率 | 年 1.498 パーセント(半年複利)。償還期日における本債券の利息の金額、及び経過利息の算出方法については後記(別紙)において定める。 | 払込期日 | 平成 29 年 10 月 27 日 |
| 利払日 | 平成 69 年 3 月 19 日 | 申込取扱場所 | 別項引受金融商品取引業者の本店及び国内各支店 |
| 償還期限 | 平成 69 年 3 月 19 日 | 振替機関 | 株式会社証券保管振替機構 東京都中央区日本橋茅場町二丁目 1 番 1 号 |
| 募集の方法 | 一般募集 | | |
| 利息支払の方法 | <p>利息支払の方法及び期限</p> <p>(1)本債券の利息は、発行日の翌日から償還期日までつけ、償還期日を利払期日としてその日までの分を支払う。</p> <p>(2)利息を支払うべき日が銀行休業日に当たるときは、その前日に繰り上げる。</p> <p>(3)償還期日後は、利息をつけない。</p> <p>(4)本債券の利金は、社債、株式等の振替に関する法律(平成 13 年法律第 75 号)以下「振替法」という。)及び上記「振替機関」欄に定める振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われる。</p> | | |
| 償還の方法 | <p>1. 償還金額</p> <p>各債券の金額 100 円につき金 100 円</p> <p>2. 償還の方法及び期限</p> <p>(1)本債券の元金は、平成 69 年 3 月 19 日にその全額を償還する。</p> <p>(2)償還すべき日が銀行休業日に当たるときは、その前日に繰り上げる。</p> <p>(3)本債券の買入消却は、いつでもこれを行うことができる。</p> <p>(4)本債券の元金は、振替法及び上記「振替機関」欄に定める振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われる。</p> | | |
| 担 保 | <p>本債券の債権者は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法(平成 16 年法律第 100 号)以下「機構法」という。)の定めるところにより、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「当機構」という。)の財産について、他の債権者に先立って自己の債権の弁済を受ける権利を有する。</p> | | |
| 財務上の特約 | 担保提供制限 | 該当条項なし(本債券は一般担保付であり、財務上の特約は付されていない。) | |
| | その他の条項 | 該当条項なし | |

| | |
|------------|--|
| <p>摘 要</p> | <p>1. 信用格付業者から提供され、若しくは閲覧に供された信用格付</p> <p>(1) 株式会社格付投資情報センター（以下「R&I」という。）</p> <p>本債券について、当機構はR&IからAA+の信用格付を平成29年10月20日付で取得している。</p> <p>R&Iの信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定どおりに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見である。R&Iは信用格付によって、個々の債務等の流動性リスク、市場価値リスク、価格変動リスク等、信用リスク以外のリスクについて、何ら意見を表明するものではない。R&Iの信用格付は、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではない。また、R&Iは、明示・黙示を問わず、提供する信用格付、又はその他の意見についての正確性、適時性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、いかなる保証もしていない。</p> <p>R&Iは、信用格付を行うに際して用いた情報に対し、品質確保の措置を講じているが、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではない。R&Iは、必要と判断した場合には、信用格付を変更することがある。また、資料・情報の不足や、その他の状況により、信用格付を保留したり、取り下げたりすることがある。</p> <p>本債券の申込期間中に本債券に関してR&Iが公表する情報へのリンク先は、R&Iのホームページ (https://www.r-i.co.jp/rating/index.html) の「格付アクション・コメント」及び同コーナー右下の「一覧はこちら」をクリックして表示されるレポート検索画面に掲載されている。なお、システム障害等何らかの事情により情報を入手することができない可能性がある。その場合の連絡先は以下のとおり。</p> <p>R&I：電話番号 03-6273-7471</p> <p>(2) ムーディーズ・ジャパン株式会社（以下「ムーディーズ」という。）</p> <p>本債券について、当機構はムーディーズからA1の信用格付を平成29年10月20日付で取得している。</p> <p>ムーディーズの信用格付は、事業体、与信契約、債務又は債務類似証券の将来の相対的信用リスクについてのムーディーズの現時点の意見である。ムーディーズは、信用リスクを、事業体が契約上・財務上の義務を期日に履行できないリスク及びデフォルト事由が発生した場合に見込まれるあらゆる種類の財産上の損失と定義している。ムーディーズの信用格付は、流動性リスク、市場価値リスク、価格変動性リスク及びその他のリスクについて言及するものではない。ムーディーズの信用格付は、投資又は財務に関する助言を構成するものではなく、特定の証券の購入、売却、又は保有を推奨するものではない。ムーディーズは、いかなる形式又は方法によっても、これらの格付若しくはその他の意見又は情報の正確性、適時性、完全性、商品性及び特定の目的への適合性について、（明示的、黙示的を問わず）いかなる保証も行っていない。発行体又は債務の信用リスクは、発行体から入手した情報、又は公開情報に基づき評価される。ムーディーズは、信用格付を付与する際に用いる情報が十分な品質を有し、またその情報源がムーディーズにとって信頼できると考えられるものであることを確保するため、全ての必要な措置を講じている。しかし、ムーディーズは監査を行うものではなく、格付の過程で受領した情報について常に独自に確認することはできない。ムーディーズは、必要と判断した場合に本格付を変更することがある。また、資料、情報の不足や、その他の状況により、本格付を取り下げることがある。</p> <p>本債券の申込期間中に本債券に関してムーディーズが公表する情報へのリンク先は、ムーディーズのホームページ (http://www.moodys.co.jp/) の「当社格付に関する情報」の「レポート」コーナーの「プレスリリース - ムーディーズ・ジャパン」をク</p> |
|------------|--|

リックして表示される「レポート」に掲載されている。なお、システム障害等何らかの事情により情報を入手することができない可能性がある。その場合の連絡先は以下のとおり。

ムーディーズ：電話番号 03-5408-4100

2. 各債券の形式

本債券は、その全部について振替法第 66 条第 2 号の規定に基づき振替法の適用を受けることとする旨を定めた債券であり、同法第 67 条第 1 項の規定に基づき本債券の券面を発行することができない。

3. 期限の利益喪失に関する特約

当機構は、次に掲げる事由のいずれかが発生した場合には、本債券について期限の利益を失い、本債券を別記「償還の方法」欄第 1 項に定める償還金額に未払い経過利息を付した金額で、直ちに償還する。

- (1) 当機構が別記「利息支払の方法」又は「償還の方法」欄第 2 項の規定に違背し、5 営業日以内に履行又は治癒しないとき。
- (2) 当機構が本債券以外の債券又は機構法第 15 条第 1 項の規定に基づき債務引受を行った社債に係る債務について期限の利益を喪失したとき。
- (3) 当機構が債券を除く借入金債務（当機構が債務引受を行った借入金債務を含む。）について期限の利益を喪失したとき。ただし、当該債務の合計額（邦貨換算後）が 10 億円を超えない場合は、この限りでない。
- (4) 当機構が解散することを定める法令及び解散期日を定める法令が公布され、かつ当機構の解散期日の 1 箇月前迄に、本債券の債務の総額につき他の法人に承継されることを定める法令が公布されないとき。
- (5) 法令若しくは裁判所の決定により、当機構又は当機構が解散して本債券の債務を承継した法人に対して、株式会社における破産、民事再生、会社更生、特別清算、その他これらに準ずる倒産処理手続に相当する手続が開始されたとき。

4. 期限の利益喪失の公告

前項の規定により当機構が本債券について期限の利益を喪失したときは、募集の受託会社はその旨を本「摘要」欄第 5 項(2)に定める方法により公告する。

5. 公告の方法

- (1) 本債券に関し、本債券の債権者が利害を有し、募集の受託会社が債権者にこれを通知する必要があると認める事項がある場合には、これを公告する。
- (2) 公告は、法令又は契約に別段の定めがあるものを除き、官報並びに東京都及び大阪市で発行される各 1 種以上の新聞紙にこれを掲載することにより行う。ただし、重複するものがあるときは、これを省略することができる。

6. 本債券の債権者集会

- (1) 本債券の債権者集会（以下「債権者集会」という。）は、本債券の全部についてするその支払の猶予その他本債券の債権者の利害に重大な影響を及ぼす事項について決議をすることができる。
- (2) 債権者集会は、東京都において行う。
- (3) 債権者集会は、当機構又は募集の受託会社がこれを招集するものとし、債権者集会の

日の3週間前までに、債権者集会を招集する旨及び債権者集会の目的である事項を公告する。

(4) 本債券総額（償還済みの額を除く。また、当機構が有する本債券の金額はこれに算入しない。）の10分の1以上に当たる本債券を有する債権者は、債権者集会の目的である事項及び招集の理由を記載した書面を募集の受託会社に提出して、債権者集会の招集を請求することができる。

(5) 本債券の債権者は、債権者集会において、その有する本債券の金額（償還済みの額を除く。）に応じて、議決権を有するものとする。

(6) 前号の規定にかかわらず、当機構は、その有する本債券については、議決権を有しない。

(7) 債権者集会において決議をする事項を可決するには、議決権者（議決権を行使することができる本債券の債権者をいう。以下本要項において同じ。）の議決権の総額の5分の1以上で、かつ、出席した議決権者の議決権の総額の3分の2以上の議決権を有する者の同意がなければならない。

(8) 前号の場合においては、以下のいずれかに該当する決議をすることはできないものとし、これらに該当する決議がされた場合、かかる決議は効力を有しない。

① 債権者集会の招集の手續又はその決議の方法が法令又は本要項の定め違反するとき

② 決議が不正の方法によって成立するに至ったとき

③ 決議が著しく不公正であるとき

④ 決議が本債券の債権者の一般の利益に反するとき

(9) 本債券の債権者は、本人又はその代理人によって、債権者集会に出席することができる。当機構は、その代表者を当該集会に出席させ、又は書面により意見を述べるができる。本人又はその代理人が当該集会に出席しない本債券の債権者は、募集の受託会社が定めるところにしたがい、書面によって議決権を行使することができる。書面によって行使した議決権の額は、出席した議決権者の議決権の額に算入する。

(10) 債権者集会の決議は、本債券を有するすべての債権者に対し効力を有するものとし、その執行は募集の受託会社があたるとする。

(11) 本項に定めるほか債権者集会に関する手續は当機構と募集の受託会社が協議して定め、本「摘要」欄第5項(2)に定める方法により公告する。

(12) 本項の手續に要する合理的な費用は当機構の負担とする。

7. 募集の受託会社への事業概況等の報告

(1) 当機構は、毎年、事業の概況、決算の概況等が記載された書類を募集の受託会社に提出する。

(2) 当機構は、機構法の定める当機構の業務又は組織につき変更が生じた場合には、募集の受託会社にこれを通知する。

(3) 募集の受託会社は、本債券の債権者の利益保護のために必要と認める場合は、法令、契約又は当機構の内部規則その他の定め反しない範囲において、当機構に対し、その事業、資産の概況を知るために必要な書類の提出を請求することができる。

8. 追加発行

当機構は、随時、本債券の債権者の同意なしに、本債券と発行価額を除く全ての点において同じ要項を有し、本債券と併合されることとなる債券（以下「追加債券」という。）を追加発行することができる。追加債券の発行日以降、本要項に関する各規定は、当該追

| | |
|--|--|
| | <p>加債券にも及ぶものとする。</p> <p>9. 募集及び募入方法</p> <p>本債券の募集は、本債券を取得した者が本債券を以下に定める指定金融機関等（以下「指定金融機関等」という。）以外の者に譲渡を行わないことを条件として、指定金融機関等である者に限定して一般募集し、応募超過の場合は引受並びに募集の取扱会社が適宜募入額を定める。</p> <p>(1) 租税特別措置法（昭和 32 年法律第 26 号）（以下「特別措置法」という。）第 8 条第 1 項に規定する金融機関。</p> <p>(2) 特別措置法第 8 条第 2 項に規定する金融商品取引業者等。</p> <p>(3) 特別措置法第 8 条第 3 項に規定する内国法人。</p> <p>(4) 所得税法（昭和 40 年法律第 33 号）（以下「所得税法」という。）第 176 条第 1 項に規定する内国法人である信託会社であって同項の規定に基づき信託の信託財産として取得する者。</p> <p>(5) 所得税法第 180 条の 2 第 1 項に規定する外国法人である信託会社であって同項の規定に基づき信託の信託財産として取得する者。</p> <p>(6) 所得税法第 11 条第 1 項に規定する同法別表第一に掲げる内国法人であって同条第 3 項の適用を受ける者。</p> <p>10. 発行代理人及び支払代理人</p> <p>株式会社三井住友銀行</p> |
|--|--|

2 【債券の引受け及び債券に関する事務の委託】（40 年債）

| | 引受人の氏名又は名称 | 住 所 | 引受金額 | 引受けの条件 |
|--------|------------------------|-----------------------|-------|---|
| 債券の引受け | 大和証券株式会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目 9 番 1 号 | 4,500 | <p>1 引受人は、本債券の全額につき共同して引受ならびに募集の取扱いを行い、応募額がその全額に達しない場合には残額を引受ける。</p> <p>2 本債券の引受手数料は総額 82,500,000 円とする。</p> |
| | みずほ証券株式会社 | 東京都千代田区大手町一丁目 5 番 1 号 | 2,250 | |
| | 野村証券株式会社 | 東京都中央区日本橋一丁目 9 番 1 号 | 2,250 | |
| | SMB C 日興証券株式会社 | 東京都千代田区丸の内三丁目 3 番 1 号 | 2,250 | |
| | 三菱UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社 | 東京都千代田区丸の内二丁目 5 番 2 号 | 3,750 | |
| | 計 | | | |
| 券 債 | 募集の受託会社の名称 | 住 所 | | |

| | |
|------------|-------------------|
| 株式会社三井住友銀行 | 東京都千代田区丸の内一丁目1番2号 |
|------------|-------------------|

(別紙) 償還期日における本債券の利息の金額、及び経過利息の算出方法

| | |
|----------------------|--|
| 債券の名称 | 第186回 日本高速道路保有・債務返済機構債券(指定金融機関等限定) |
| 発行日 | 平成29年(2017年)10月27日 |
| 償還期日 | 平成69年(2057年)3月19日 |
| 発行額 | 150億円 |
| 利率 | 年1.498パーセント(半年複利) |
| 利払期日 | 平成69年(2057年)3月19日 |
| 償還期日時点利子額 (1円あたり) | 0.8001942円 (注)償還期日時点利子額については、下記に記載の経過利息算出式に準じて算出しており、実額である。 |

本債券の利払期日は平成69年(2057年)3月19日のみであるが、本債券の経過利息を算出することが必要となった場合には、下記の経過利息算出式を適用するものとする。

| | |
|---------|--|
| 経過利息算出式 | $\text{経過利息金額(1円あたり)} = \text{利払係数} \times \{1 + \text{利率} \times (\text{経過日数}/365)\} - 1$ <p>(注1)「利払係数」及び「経過日数」については以下に規定する。 (注2)「$1 + \text{利率} \times (\text{経過日数}/365)$」の算出結果及び上記経過利息算出式による算出結果については、小数点以下第8位を切り捨てとする。</p> |
| 見做利払日 | 発行日の翌日から償還期日までの期間における毎年4月27日及び10月27日 |
| 経過日数 | 経過利息を付すべき期間(以下「経過利息期間」とする。)の最終日の直前の見做利払日の翌日から経過利息期間の最終日までの実日数。ただし、経過利息期間の最終日が見做利払日に当たる場合には、経過日数は0日とする。また、経過利息期間の最終日が、初回の見做利払日(平成30年(2018年)4月27日)よりも前の日となる場合には、経過日数は発行日の翌日から経過利息期間の最終日までの実日数とする。 |

| | |
|------|--|
| 利払係数 | <p>利払係数 = $(1 + \text{利率}/2)^n$</p> <p>n = 発行日の翌日から経過利息期間の最終日までに到来する到来済みの見做利払日の回数(経過利息期間の最終日が見做利払日に当たる場合には、当該見做利払日も回数に含む。)</p> <p>(注) 上記算出結果については、小数点以下第 8 位を切り捨てとする。</p> |
|------|--|

以下に記載する利払係数及び経過利息金額(1円あたり)は、経過利息算出の参考のために、各経過利息期間の最終日が見做利払日(4月27日又は10月27日)となる場合について、経過利息算出式を各経過利息期間の最終日毎に適用して算出した参考情報である。

| 見做利払日 | 見做利払日の回数(n) | 経過利息期間の最終日 | 経過日数 | 利払係数 | 経過利息金額 (1円あたり、単位は円) |
|------------|-------------|------------|------|-----------|------------------------|
| 2018/4/27 | 1 | 2018/4/27 | 0 | 1.0074900 | 0.0074900 |
| 2018/10/27 | 2 | 2018/10/27 | 0 | 1.0150361 | 0.0150361 |
| 2019/4/27 | 3 | 2019/4/27 | 0 | 1.0226387 | 0.0226387 |
| 2019/10/27 | 4 | 2019/10/27 | 0 | 1.0302982 | 0.0302982 |
| 2020/4/27 | 5 | 2020/4/27 | 0 | 1.0380152 | 0.0380152 |
| 2020/10/27 | 6 | 2020/10/27 | 0 | 1.0457899 | 0.0457899 |
| 2021/4/27 | 7 | 2021/4/27 | 0 | 1.0536229 | 0.0536229 |
| 2021/10/27 | 8 | 2021/10/27 | 0 | 1.0615145 | 0.0615145 |
| 2022/4/27 | 9 | 2022/4/27 | 0 | 1.0694652 | 0.0694652 |
| 2022/10/27 | 10 | 2022/10/27 | 0 | 1.0774755 | 0.0774755 |
| 2023/4/27 | 11 | 2023/4/27 | 0 | 1.0855458 | 0.0855458 |
| 2023/10/27 | 12 | 2023/10/27 | 0 | 1.0936766 | 0.0936766 |
| 2024/4/27 | 13 | 2024/4/27 | 0 | 1.1018682 | 0.1018682 |
| 2024/10/27 | 14 | 2024/10/27 | 0 | 1.1101212 | 0.1101212 |
| 2025/4/27 | 15 | 2025/4/27 | 0 | 1.1184360 | 0.1184360 |
| 2025/10/27 | 16 | 2025/10/27 | 0 | 1.1268131 | 0.1268131 |
| 2026/4/27 | 17 | 2026/4/27 | 0 | 1.1352529 | 0.1352529 |
| 2026/10/27 | 18 | 2026/10/27 | 0 | 1.1437560 | 0.1437560 |
| 2027/4/27 | 19 | 2027/4/27 | 0 | 1.1523227 | 0.1523227 |
| 2027/10/27 | 20 | 2027/10/27 | 0 | 1.1609536 | 0.1609536 |
| 2028/4/27 | 21 | 2028/4/27 | 0 | 1.1696491 | 0.1696491 |
| 2028/10/27 | 22 | 2028/10/27 | 0 | 1.1784098 | 0.1784098 |
| 2029/4/27 | 23 | 2029/4/27 | 0 | 1.1872361 | 0.1872361 |
| 2029/10/27 | 24 | 2029/10/27 | 0 | 1.1961285 | 0.1961285 |
| 2030/4/27 | 25 | 2030/4/27 | 0 | 1.2050875 | 0.2050875 |
| 2030/10/27 | 26 | 2030/10/27 | 0 | 1.2141136 | 0.2141136 |
| 2031/4/27 | 27 | 2031/4/27 | 0 | 1.2232073 | 0.2232073 |
| 2031/10/27 | 28 | 2031/10/27 | 0 | 1.2323692 | 0.2323692 |
| 2032/4/27 | 29 | 2032/4/27 | 0 | 1.2415996 | 0.2415996 |
| 2032/10/27 | 30 | 2032/10/27 | 0 | 1.2508992 | 0.2508992 |
| 2033/4/27 | 31 | 2033/4/27 | 0 | 1.2602684 | 0.2602684 |
| 2033/10/27 | 32 | 2033/10/27 | 0 | 1.2697078 | 0.2697078 |
| 2034/4/27 | 33 | 2034/4/27 | 0 | 1.2792179 | 0.2792179 |
| 2034/10/27 | 34 | 2034/10/27 | 0 | 1.2887993 | 0.2887993 |
| 2035/4/27 | 35 | 2035/4/27 | 0 | 1.2984524 | 0.2984524 |
| 2035/10/27 | 36 | 2035/10/27 | 0 | 1.3081778 | 0.3081778 |
| 2036/4/27 | 37 | 2036/4/27 | 0 | 1.3179760 | 0.3179760 |
| 2036/10/27 | 38 | 2036/10/27 | 0 | 1.3278477 | 0.3278477 |
| 2037/4/27 | 39 | 2037/4/27 | 0 | 1.3377933 | 0.3377933 |
| 2037/10/27 | 40 | 2037/10/27 | 0 | 1.3478133 | 0.3478133 |
| 2038/4/27 | 41 | 2038/4/27 | 0 | 1.3579085 | 0.3579085 |
| 2038/10/27 | 42 | 2038/10/27 | 0 | 1.3680792 | 0.3680792 |
| 2039/4/27 | 43 | 2039/4/27 | 0 | 1.3783261 | 0.3783261 |
| 2039/10/27 | 44 | 2039/10/27 | 0 | 1.3886498 | 0.3886498 |
| 2040/4/27 | 45 | 2040/4/27 | 0 | 1.3990508 | 0.3990508 |

| 見做利払日 | 見做利払日の回数(n) | 経過利息期間の最終日 | 経過日数 | 利払係数 | 経過利息金額 (1円あたり、単位は円) |
|------------|-------------|------------|------|-----------|------------------------|
| 2040/10/27 | 46 | 2040/10/27 | 0 | 1.4095297 | 0.4095297 |
| 2041/4/27 | 47 | 2041/4/27 | 0 | 1.4200870 | 0.4200870 |
| 2041/10/27 | 48 | 2041/10/27 | 0 | 1.4307235 | 0.4307235 |
| 2042/4/27 | 49 | 2042/4/27 | 0 | 1.4414396 | 0.4414396 |
| 2042/10/27 | 50 | 2042/10/27 | 0 | 1.4522360 | 0.4522360 |
| 2043/4/27 | 51 | 2043/4/27 | 0 | 1.4631132 | 0.4631132 |
| 2043/10/27 | 52 | 2043/10/27 | 0 | 1.4740720 | 0.4740720 |
| 2044/4/27 | 53 | 2044/4/27 | 0 | 1.4851128 | 0.4851128 |
| 2044/10/27 | 54 | 2044/10/27 | 0 | 1.4962362 | 0.4962362 |
| 2045/4/27 | 55 | 2045/4/27 | 0 | 1.5074431 | 0.5074431 |
| 2045/10/27 | 56 | 2045/10/27 | 0 | 1.5187338 | 0.5187338 |
| 2046/4/27 | 57 | 2046/4/27 | 0 | 1.5301091 | 0.5301091 |
| 2046/10/27 | 58 | 2046/10/27 | 0 | 1.5415696 | 0.5415696 |
| 2047/4/27 | 59 | 2047/4/27 | 0 | 1.5531160 | 0.5531160 |
| 2047/10/27 | 60 | 2047/10/27 | 0 | 1.5647488 | 0.5647488 |
| 2048/4/27 | 61 | 2048/4/27 | 0 | 1.5764688 | 0.5764688 |
| 2048/10/27 | 62 | 2048/10/27 | 0 | 1.5882766 | 0.5882766 |
| 2049/4/27 | 63 | 2049/4/27 | 0 | 1.6001727 | 0.6001727 |
| 2049/10/27 | 64 | 2049/10/27 | 0 | 1.6121580 | 0.6121580 |
| 2050/4/27 | 65 | 2050/4/27 | 0 | 1.6242331 | 0.6242331 |
| 2050/10/27 | 66 | 2050/10/27 | 0 | 1.6363986 | 0.6363986 |
| 2051/4/27 | 67 | 2051/4/27 | 0 | 1.6486552 | 0.6486552 |
| 2051/10/27 | 68 | 2051/10/27 | 0 | 1.6610037 | 0.6610037 |
| 2052/4/27 | 69 | 2052/4/27 | 0 | 1.6734446 | 0.6734446 |
| 2052/10/27 | 70 | 2052/10/27 | 0 | 1.6859787 | 0.6859787 |
| 2053/4/27 | 71 | 2053/4/27 | 0 | 1.6986067 | 0.6986067 |
| 2053/10/27 | 72 | 2053/10/27 | 0 | 1.7113292 | 0.7113292 |
| 2054/4/27 | 73 | 2054/4/27 | 0 | 1.7241471 | 0.7241471 |
| 2054/10/27 | 74 | 2054/10/27 | 0 | 1.7370609 | 0.7370609 |
| 2055/4/27 | 75 | 2055/4/27 | 0 | 1.7500715 | 0.7500715 |
| 2055/10/27 | 76 | 2055/10/27 | 0 | 1.7631796 | 0.7631796 |
| 2056/4/27 | 77 | 2056/4/27 | 0 | 1.7763858 | 0.7763858 |
| 2056/10/27 | 78 | 2056/10/27 | 0 | 1.7896909 | 0.7896909 |

3【新規発行債券】(40年債)

| | | | |
|----------|---|--------------------------------------|---|
| 銘柄 | 第187回日本高速道路保有・債務返済機構債券 | 振替債券の総額 | 金25,000,000,000円 |
| 記名・無記名の別 | — | 発行価額の総額 | 金25,000,000,000円 |
| 各債券の金額 | 1,000万円の1種 | 申込期間 | 平成29年10月20日 |
| 発行価格 | 各債券の金額100円につき金100円 | 申込証拠金 | 各債券の金額100円につき金100円とし、払込期日に払込金に振替充当する。 申込証拠金には、利息をつけない。 |
| 利率 | 年1.308パーセント | 払込期日 | 平成29年10月27日 |
| 利払日 | 毎年5月20日及び11月20日 | 申込取扱場所 | 別項引受金融商品取引業者の本店及び国内各支店 |
| 償還期限 | 平成69年3月19日 | 振替機関 | 株式会社証券保管振替機構 東京都中央区日本橋茅場町二丁目1番1号 |
| 募集の方法 | 一般募集 | | |
| 利息支払の方法 | <p>利息支払の方法及び期限</p> <p>(1)本債券の利息は、発行日の翌日から償還期日までつけ、平成30年5月20日を第1回の利払期日としてその日までの分を支払い、その後、毎年5月20日及び11月20日の2回に、各その日までの前半箇年分を支払う。</p> <p>(2)発行日の翌日から平成29年11月20日までの期間及び平成68年11月20日の翌日から償還期日までの期間につき半箇年に満たない利息を計算するときは、半箇年の日割をもって計算する。</p> <p>(3)利息を支払うべき日が銀行休業日に当たるときは、その前日に繰り上げる。</p> <p>(4)償還期日後は、利息をつけない。</p> <p>(5)本債券の利金は、社債、株式等の振替に関する法律(平成13年法律第75号)(以下「振替法」という。)及び上記「振替機関」欄に定める振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われる。</p> | | |
| 償還の方法 | <p>1. 償還金額</p> <p>各債券の金額100円につき金100円</p> <p>2. 償還の方法及び期限</p> <p>(1)本債券の元金は、平成69年3月19日にその全額を償還する。</p> <p>(2)償還すべき日が銀行休業日に当たるときは、その前日に繰り上げる。</p> <p>(3)本債券の買入消却は、いつでもこれを行うことができる。</p> <p>(4)本債券の元金は、振替法及び上記「振替機関」欄に定める振替機関の業務規程その他の規則に従って支払われる。</p> | | |
| 担保 | <p>本債券の債権者は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構法(平成16年法律第100号)(以下「機構法」という。)の定めるところにより、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(以下「当機構」という。)の財産について、他の債権者に先立って自己の債権の弁済を受ける権利を有する。</p> | | |
| 財務上の特約 | 担保提供制限 | 該当条項なし(本債券は一般担保付であり、財務上の特約は付されていない。) | |
| | その他の条項 | 該当条項なし | |

摘要

1. 信用格付業者から提供され、若しくは閲覧に供された信用格付

(1) 株式会社格付投資情報センター（以下「R&I」という。）

本債券について、当機構はR&IからAA+の信用格付を平成29年10月20日付で取得している。

R&Iの信用格付は、発行体が負う金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定どおりに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見である。R&Iは信用格付によって、個々の債務等の流動性リスク、市場価値リスク、価格変動リスク等、信用リスク以外のリスクについて、何ら意見を表明するものではない。R&Iの信用格付は、いかなる意味においても、現在・過去・将来の事実の表明ではない。また、R&Iは、明示・黙示を問わず、提供する信用格付、又はその他の意見についての正確性、適時性、完全性、商品性、及び特定目的への適合性その他一切の事項について、いかなる保証もしていない。

R&Iは、信用格付を行うに際して用いた情報に対し、品質確保の措置を講じているが、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではない。R&Iは、必要と判断した場合には、信用格付を変更することがある。また、資料・情報の不足や、その他の状況により、信用格付を保留したり、取り下げたりすることがある。

本債券の申込期間中に本債券に関してR&Iが公表する情報へのリンク先は、R&Iのホームページ (<https://www.r-i.co.jp/rating/index.html>) の「格付アクション・コメント」及び同コーナー右下の「一覧はこちら」をクリックして表示されるレポート検索画面に掲載されている。なお、システム障害等何らかの事情により情報を入手することができない可能性がある。その場合の連絡先は以下のとおり。

R&I：電話番号 03-6273-7471

(2) ムーディーズ・ジャパン株式会社（以下「ムーディーズ」という。）

本債券について、当機構はムーディーズからA1の信用格付を平成29年10月20日付で取得している。

ムーディーズの信用格付は、事業体、与信契約、債務又は債務類似証券の将来の相対的信用リスクについてのムーディーズの現時点の意見である。ムーディーズは、信用リスクを、事業体が契約上・財務上の義務を期日に履行できないリスク及びデフォルト事由が発生した場合に見込まれるあらゆる種類の財産上の損失と定義している。ムーディーズの信用格付は、流動性リスク、市場価値リスク、価格変動性リスク及びその他のリスクについて言及するものではない。ムーディーズの信用格付は、投資又は財務に関する助言を構成するものではなく、特定の証券の購入、売却、又は保有を推奨するものではない。ムーディーズは、いかなる形式又は方法によっても、これらの格付若しくはその他の意見又は情報の正確性、適時性、完全性、商品性及び特定の目的への適合性について、（明示的、黙示的を問わず）いかなる保証も行っていない。発行体又は債務の信用リスクは、発行体から入手した情報、又は公開情報に基づき評価される。ムーディーズは、信用格付を付与する際に用いる情報が十分な品質を有し、またその情報源がムーディーズにとって信頼できると考えられるものであることを確保するため、全ての必要な措置を講じている。しかし、ムーディーズは監査を行うものではなく、格付の過程で受領した情報について常に独自に確認することはできない。ムーディーズは、必要と判断した場合に本格付を変更することがある。また、資料、情報の不足や、その他の状況により、本格付を取り下げることがある。

本債券の申込期間中に本債券に関してムーディーズが公表する情報へのリンク先は、ムーディーズのホームページ (<http://www.moodys.co.jp/>) の「当社格付に関する情報」の「レポート」コーナーの「プレスリリース - ムーディーズ・ジャパン」をク

リックして表示される「レポート」に掲載されている。なお、システム障害等何らかの事情により情報を入手することができない可能性がある。その場合の連絡先は以下のとおり。

ムーディーズ：電話番号 03-5408-4100

2. 各債券の形式

本債券は、その全部について振替法第 66 条第 2 号の規定に基づき振替法の適用を受けるとする旨を定めた債券であり、同法第 67 条第 1 項の規定に基づき本債券の券面を発行することができない。

3. 期限の利益喪失に関する特約

当機構は、次に掲げる事由のいずれかが発生した場合には、本債券について期限の利益を失う。

- (1) 当機構が別記「利息支払の方法」又は「償還の方法」欄第 2 項の規定に違背し、5 営業日以内に履行又は治癒しないとき。
- (2) 当機構が本債券以外の債券又は機構法第 15 条第 1 項の規定に基づき債務引受を行った社債に係る債務について期限の利益を喪失したとき。
- (3) 当機構が債券を除く借入金債務（当機構が債務引受を行った借入金債務を含む。）について期限の利益を喪失したとき。ただし、当該債務の合計額（邦貨換算後）が 10 億円を超えない場合は、この限りでない。
- (4) 当機構が解散することを定める法令及び解散期日を定める法令が公布され、かつ当機構の解散期日の 1 箇月前迄に、本債券の債務の総額につき他の法人に承継されることを定める法令が公布されないとき。
- (5) 法令若しくは裁判所の決定により、当機構又は当機構が解散して本債券の債務を承継した法人に対して、株式会社における破産、民事再生、会社更生、特別清算、その他これらに準ずる倒産処理手続に相当する手続が開始されたとき。

4. 期限の利益喪失の公告

前項の規定により当機構が本債券について期限の利益を喪失したときは、募集の受託会社はその旨を本「摘要」欄第 5 項(2)に定める方法により公告する。

5. 公告の方法

- (1) 本債券に関し、本債券の債権者が利害を有し、募集の受託会社が債権者にこれを通知する必要があると認める事項がある場合には、これを公告する。
- (2) 公告は、法令又は契約に別段の定めがあるものを除き、官報並びに東京都及び大阪府で発行される各 1 種以上の新聞紙にこれを掲載することにより行う。ただし、重複するものがあるときは、これを省略することができる。

6. 本債券の債権者集会

- (1) 本債券の債権者集会（以下「債権者集会」という。）は、本債券の全部についてその支払の猶予その他本債券の債権者の利害に重大な影響を及ぼす事項について決議をすることができる。
- (2) 債権者集会は、東京都において行う。
- (3) 債権者集会は、当機構又は募集の受託会社がこれを招集するものとし、債権者集会の日の 3 週間前までに、債権者集会を招集する旨及び債権者集会の目的である事項を公告

する。

(4) 本債券総額（償還済みの額を除く。また、当機構が有する本債券の金額はこれに算入しない。）の10分の1以上に当たる本債券を有する債権者は、債権者集会の目的である事項及び招集の理由を記載した書面を募集の受託会社に提出して、債権者集会の招集を請求することができる。

(5) 本債券の債権者は、債権者集会において、その有する本債券の金額（償還済みの額を除く。）に応じて、議決権を有するものとする。

(6) 前号の規定にかかわらず、当機構は、その有する本債券については、議決権を有しない。

(7) 債権者集会において決議をする事項を可決するには、議決権者（議決権を行使することができる本債券の債権者をいう。以下本要項において同じ。）の議決権の総額の5分の1以上で、かつ、出席した議決権者の議決権の総額の3分の2以上の議決権を有する者の同意がなければならない。

(8) 前号の場合においては、以下のいずれかに該当する決議をすることはできないものとし、これらに該当する決議がされた場合、かかる決議は効力を有しない。

① 債権者集会の招集の手続又はその決議の方法が法令又は本要項の定め違反するとき

② 決議が不正の方法によって成立するに至ったとき

③ 決議が著しく不公正であるとき

④ 決議が本債券の債権者の一般の利益に反するとき

(9) 本債券の債権者は、本人又はその代理人によって、債権者集会に出席することができる。当機構は、その代表者を当該集会に出席させ、又は書面により意見を述べることができる。本人又はその代理人が当該集会に出席しない本債券の債権者は、募集の受託会社が定めるところにしたがい、書面によって議決権を行使することができる。書面によって行使した議決権の額は、出席した議決権者の議決権の額に算入する。

(10) 債権者集会の決議は、本債券を有するすべての債権者に対し効力を有するものとし、その執行は募集の受託会社があたるものとする。

(11) 本項に定めるほか債権者集会に関する手続は当機構と募集の受託会社が協議して定め、本「摘要」欄第5項(2)に定める方法により公告する。

(12) 本項の手続に要する合理的な費用は当機構の負担とする。

7. 募集の受託会社への事業概況等の報告

(1) 当機構は、毎年、事業の概況、決算の概況等が記載された書類を募集の受託会社に提出する。

(2) 当機構は、機構法の定める当機構の業務又は組織につき変更が生じた場合には、募集の受託会社にこれを通知する。

(3) 募集の受託会社は、本債券の債権者の利益保護のために必要と認める場合は、法令、契約又は当機構の内部規則その他の定め反しない範囲において、当機構に対し、その事業、資産の概況を知るために必要な書類の提出を請求することができる。

8. 追加発行

当機構は、随時、本債券の債権者の同意なしに、本債券と初回利払日ないし発行価額を除く全ての点において同じ要項を有し、本債券と併合されることとなる債券（以下「追加債券」という。）を追加発行することができる。追加債券の発行日以降、本要項に関する各規定は、当該追加債券にも及ぶものとする。

| | |
|--|---|
| | <p>9. 募集及び募入方法 本債券は一般募集し、応募超過の場合は引受並びに募集の取扱会社が適宜募入額を定める。</p> <p>10. 発行代理人及び支払代理人 株式会社三井住友銀行</p> |
|--|---|

4 【債券の引受け及び債券に関する事務の委託】(40年債)

| 債券の引受け | 引受人の氏名又は名称 | 住 所 | 引受金額 | 引受けの条件 |
|-------------|------------|---|--|--|
| | | 大和証券株式会社 みずほ証券株式会社 野村証券株式会社 SMB C日興証券株式会社 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 | 東京都千代田区丸の内一丁目9番1号 東京都千代田区大手町一丁目5番1号 東京都中央区日本橋一丁目9番1号 東京都千代田区丸の内三丁目3番1号 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号 | 百万円 7,500 5,000 5,000 3,750 3,750 |
| | 計 | | 25,000 | |
| 債券に関する事務の委託 | 募集の受託会社の名称 | 住 所 | | |
| | 株式会社三井住友銀行 | 東京都千代田区丸の内一丁目1番2号 | | |

5 【新規発行による手取金の使途】

(1) 【新規発行による手取金の額】

| 払込金額の総額 (円) | 発行諸費用の概算額 (円) | 差引手取概算額 (円) |
|------------------|---------------|------------------|
| 40,000,000,000 円 | 236,412,000 円 | 39,763,588,000 円 |

(注) 上記は、第 186 回日本高速道路保有・債務返済機構債券 (指定金融機関等限定) 及び第 187 回日本高速道路保有・債務返済機構債券の合計額です。

(2) 【手取金の使途】

上記差引手取概算額 39,763,588,000 円は、全額を機構法第 12 条第 1 項第 2 号及び第 3 号に定める業務に充当する予定です。

【基本説明書の補完情報】

【基本説明書の補完情報】

1. 基本説明書に記載された内容について、基本説明書の作成日以降、現在（平成 29 年 10 月 20 日）までの間において生じた変更は以下のとおりです。なお、変更箇所は下線で示しております。

(1) 基本説明書 8 頁

3 【事業の内容】

(変更前)

c 高速道路株式会社から収受する貸付料の額

当機構が高速道路株式会社から収受する貸付料の額は、以下のとおりです。

なお、下記表中、平成 25 事業年度から平成 27 事業年度は実績を記載しています。また、平成 28 事業年度は、高速道路株式会社から収受する予定額を記載しています。

(単位：百万円（税抜き）)

| 会社名 | 平成 25 事業年度 | 平成 26 事業年度 | 平成 27 事業年度 | 平成 28 事業年度 |
|----------------|------------|------------------|------------------|------------|
| 東日本高速道路株式会社 | 461,842 | <u>560,190</u> | 581,825 | 524,813 |
| 中日本高速道路株式会社 | 360,586 | <u>461,888</u> | <u>421,626</u> | 452,165 |
| 西日本高速道路株式会社 | 426,364 | 521,035 | <u>456,612</u> | 502,838 |
| 首都高速道路株式会社 | 193,684 | <u>188,842</u> | 184,109 | 177,027 |
| 阪神高速道路株式会社 | 131,606 | 131,840 | <u>132,455</u> | 136,950 |
| 本州四国連絡高速道路株式会社 | 46,612 | <u>44,145</u> | <u>40,935</u> | 40,985 |
| 計 | 1,620,696 | <u>1,907,943</u> | <u>1,715,964</u> | 1,834,782 |

(注) 上記貸付料のうち平成 28 事業年度は、平成 28 年 10 月 1 日現在において、当機構と高速道路株式会社が全国路線網に属する高速道路、地域路線網に属する高速道路及び一の路線に属する高速道路ごとに締結した協定の中で定められた貸付料の合計額を記載しています。

(変更後)

c 高速道路株式会社から収受する貸付料の額

当機構が高速道路株式会社から収受する貸付料の額は、以下のとおりです。

なお、下記表中、平成 25 事業年度から平成 27 事業年度は実績を記載しています。また、平成 28 事業年度は、高速道路株式会社から収受する予定額を記載しています。

(単位：百万円（税抜き）)

| 会社名 | 平成 25 事業年度 | 平成 26 事業年度 | 平成 27 事業年度 | 平成 28 事業年度 |
|----------------|------------|------------------|------------------|------------|
| 東日本高速道路株式会社 | 461,842 | <u>560,191</u> | 581,825 | 524,813 |
| 中日本高速道路株式会社 | 360,586 | <u>461,889</u> | <u>479,507</u> | 452,165 |
| 西日本高速道路株式会社 | 426,364 | 521,035 | <u>533,647</u> | 502,838 |
| 首都高速道路株式会社 | 193,684 | <u>188,843</u> | 184,109 | 177,027 |
| 阪神高速道路株式会社 | 131,606 | 131,840 | <u>129,701</u> | 136,950 |
| 本州四国連絡高速道路株式会社 | 46,612 | <u>44,146</u> | <u>45,450</u> | 40,985 |
| 計 | 1,620,696 | <u>1,907,944</u> | <u>1,954,239</u> | 1,834,782 |

(注) 上記貸付料のうち平成 28 事業年度は、平成 28 年 10 月 1 日現在において、当機構と高速道路株式会社が全国路線網に属する高速道路、地域路線網に属する高速道路及び一の路線に属する高速道路ごとに締結した協定の中で定められた貸付料の合計額を記載しています。

(2) 基本説明書 32 頁

5 【経営上の重要な契約等】

(変更前)

| 年度 | 主な協定変更の内容等 |
|------------|---|
| 平成 28 事業年度 | <ul style="list-style-type: none">・国の補助金を活用したスマートインターチェンジの追加等を踏まえた変更・常磐自動車道等の 4 車線化事業の追加等を踏まえた変更 |

(変更後)

| 年度 | 主な協定変更の内容等 |
|------------|---|
| 平成 28 事業年度 | <ul style="list-style-type: none">・国の補助金を活用したスマートインターチェンジの追加等を踏まえた変更・常磐自動車道等の 4 車線化事業の追加等を踏まえた変更・熊本地震を踏まえた橋梁の耐震対策の実施等に伴う変更・「<u>近畿圏の新たな高速道路料金に関する具体方針(案)</u>」(平成 28 年 12 月 16 日)を踏まえた新しい料金水準、料金割引等への対応に伴う変更・「<u>東関東自動車道(潮来～銚田)</u>」、「<u>一般国道 17 号(新大宮上尾道路)(与野～上尾南)</u>」等の新規事業の追加を踏まえた変更・平成 29 年 3 月 31 日に国土交通大臣より同意を得た高速道路利便増進事業に関する計画を踏まえた変更 |
| 平成 29 事業年度 | <ul style="list-style-type: none">・国の補助金を活用したスマートインターチェンジの追加等を踏まえた変更 |

(3) 基本説明書 43 頁

3 【役員の状況】

(変更前)

| 役職名 | 氏名 (生年月日) | 任期 | 略歴 |
|---------------------|--|--|--|
| 理事長 | 勢山 廣直 (昭和 19 年 1 月 11 日 生) | 自) 平成 25 年 10 月 1 日 至) 平成 29 年 9 月 30 日 | 昭和 41 年 4 月 東京海上火災保険(株)入社 平成 13 年 6 月 東京海上火災保険(株)取締役副社長 平成 15 年 6 月 (株)東管取締役社長 平成 17 年 6 月 東京海上日動火災保険(株)顧問 平成 17 年 10 月 当機構理事長 平成 21 年 10 月 当機構理事長 (再任) |
| 理事長 代理 (役員出向) | 黒田 憲司 (昭和 35 年 10 月 17 日 生) (総務部及び関西業務部 (一部)に関する業務) | 自) 平成 27 年 10 月 1 日 至) 平成 29 年 9 月 30 日 | 昭和 59 年 4 月 建設省入省 平成 25 年 2 月 国土交通省道路局総務課長 平成 26 年 4 月 国土交通省大臣官房審議官 (道路局担当) 平成 26 年 7 月 国土交通省道路局次長 平成 27 年 7 月 国土交通省大臣官房付 |
| 理事 | 武本 義郎 (昭和 30 年 4 月 21 日 生) (経理部及び関西業務部 (一部)に関する業務) | 自) 平成 27 年 10 月 1 日 至) 平成 29 年 9 月 30 日 | 昭和 54 年 4 月 松下電器産業(株)(現パナソニック(株))入社 平成 24 年 1 月 パナソニック(株)ミュージックチャレンジソリューションズ 社長 (兼)パナソニックファクトリーソリューションズ(株)社長 平成 24 年 4 月 パナソニック(株)役員 平成 25 年 4 月 パナソニック(株)顧問 平成 25 年 10 月 当機構理事 |
| 理事 (役員出向) | 山内 正彦 (昭和 34 年 7 月 2 日 生) (企画部及び関西業務部 (一部)に関する業務) | 自) 平成 27 年 10 月 1 日 至) 平成 29 年 9 月 30 日 | 昭和 58 年 4 月 建設省入省 平成 21 年 4 月 国土交通省道路局企画課道路事業分析評価室長 平成 23 年 4 月 国土交通省九州地方整備局道路部長 平成 25 年 9 月 国土交通省総合政策局公共事業企画調整課長 |
| 監事 | 大竹 晋 (昭和 31 年 9 月 17 日 生) | 自) 平成 27 年 10 月 1 日 至) 平成 29 年度の財務諸 表承認日まで | 昭和 55 年 4 月 大正海上火災保険(株)入社 平成 23 年 4 月 三井住友海上火災保険(株)理事 関西自動車本部大阪自動車営業第一部長 平成 26 年 4 月 三井住友海上火災保険(株)理事 自動車営業推進本部東京自動車営業第一部長 平成 27 年 4 月 三井住友海上火災保険(株) 自動車営業推進本部開発顧問 |
| 監事 (役員出向) | 大塚 弘美 (昭和 43 年 11 月 1 日 生) | 自) 平成 28 年 8 月 10 日 至) 平成 29 年度の財務 諸表承認日まで | 平成 3 年 4 月 国土庁入庁 平成 25 年 9 月 阪神高速道路(株)総務人事部総務・法務課長 平成 26 年 10 月 阪神高速道路(株)総務人事部内部統制担当部長 平成 27 年 7 月 内閣部(政策統括課(防災担当)付)参事官(事業推進担当) 平成 28 年 4 月 内閣部(政策統括課(防災担当)付)参事官(普及啓発・連携担 当) 平成 28 年 6 月 当機構監事 |

(変更後)

| 役職名 | 氏名 (生年月日) | 任期 | 略歴 |
|---------------------|--|---|---|
| 理事長 | 勢山 廣直 (昭和19年1月11日生) | 自)平成29年10月1日 至)現中期目標の期間の 末日(平成30年3月31 日)まで | 昭和41年4月 東京海上火災保険(株)入社 平成13年6月 東京海上火災保険(株)取締役副社長 平成15年6月 株東管取締役社長 平成17年6月 東京海上日動火災保険(株)顧問 平成17年10月 当機構理事長 平成21年10月 当機構理事長(再任) 平成25年10月 当機構理事長(再任) |
| 理事長 代理 (役員出向) | 石塚 孝 (昭和36年11月3日生) (総務部及び関西業務部 (一部)に関する業務) | 自)平成29年10月1日 至)平成31年9月30日 | 昭和60年4月 建設省入省 平成26年7月 国土交通省道路局総務課長 平成27年7月 国土交通省大臣官房審議官(都市局担当) 平成28年7月 国土交通省中部地方整備局副局長 平成29年7月 国土交通省大臣官房付 |
| 理事 | 武本 義郎 (昭和30年4月21日生) (経理部及び関西業務部 (一部)に関する業務) | 自)平成29年10月1日 至)平成31年9月30日 | 昭和54年4月 松下電器産業(株)(現パナソニック(株))入社 平成24年1月 パナソニック(株)エレクトロニクスソリューションズ社社長 (兼)パナソニックファクトリーソリューションズ(株)社長 平成24年4月 パナソニック(株)役員 平成25年4月 パナソニック(株)顧問 平成25年10月 当機構理事 平成27年10月 当機構理事(再任) |
| 理事 (役員出向) | 加藤 恒太郎 (昭和36年5月5日生) (企画部及び関西業務部 (一部)に関する業務) | 自)平成29年10月1日 至)平成31年9月30日 | 昭和60年4月 建設省入省 平成22年4月 国土交通省道路局環境安全課道路交通安全対策室 長 平成24年4月 国土交通省四国地方整備局道路部長 平成26年4月 奈良県県土マネジメント部長 平成29年7月 国土交通省大臣官房付 |
| 監事 | 大竹 晋 (昭和31年9月17日生) | 自)平成27年10月1日 至)平成29年度の財務諸 表承認日まで | 昭和55年4月 大正海上火災保険(株)入社 平成23年4月 三井住友海上火災保険(株)理事 関西自動車本部大阪自動車営業第一部長 平成26年4月 三井住友海上火災保険(株)理事 自動車営業推進本部東京自動車営業第一部長 平成27年4月 三井住友海上火災保険(株) 自動車営業推進本部開発顧問 |
| 監事 (役員出向) | 大塚 弘美 (昭和43年11月1日生) | 自)平成28年8月10日 至)平成29年度の財務 諸表承認日まで | 平成3年4月 国土庁入庁 平成25年9月 阪神高速道路(株)総務人事部総務・法務課長 平成26年10月 阪神高速道路(株)総務人事部内部統制担当部長 平成27年7月 内閣府(政策統括官(防災担当)付)参事官(事業推進担当) 平成28年4月 内閣府(政策統括官(防災担当)付)参事官(普及啓発・連携担 当) 平成28年6月 当機構監事 |